

# 吉川允二賞受賞者 への祝辞

2022年3月8日

核融合エネルギーフォーラム

運営会議議長

佐和隆光

1. 核融合研究所の小川国大様、同じく核融合研究所の小林達哉様には、この度の吉川允二記念核融合エネルギー賞優秀賞ご受賞、心よりお祝い申し上げます。また、東北大学の宮澤健様には、吉川允二賞奨励賞ご受賞、心よりお祝い申し上げます。
2. 核融合エネルギー研究の分野では最も栄えある吉川賞を受賞なさった小川様、小林様、宮沢様の日頃の絶え間なき研鑽と、持ち前のクリエイティビティに対し、頭の下がる思いがすると同時に、拍手喝采をお送りいたします。

3. 開会のご挨拶で申し上げました通り、今や、核融合という言葉が、脱炭素ブームの到来と相まってのことか、政治家や経営者の口の端にのぼせられるようになり、核融合は、来るべき脱炭素社会におけるエネルギー供給の切り札とみなされるようになる気配であります。
4. いったい何時ごろ核融合は実用化するのかと問われると、2050年頃という答えが、昨今の常識のようであります。2050年というと、パリ協定がカーボンニュートラルを成し遂げる目途として定める年にほかなりません。

5. 残された28年間、本日ご受賞なされた3名の研究者に加え、本日、オンライン全体会議にご参集の研究者とりわけ若手の方々には、こうした世間の要望に応えるべく、画期的な研究業績を通じて、核融合実現へ向けて一石、そして二石を投じられることを願ってやみません。本日は、誠にありがとうございました。